

新時代の文章力向上支援

平成 24 年 5 月 17 日

大学の授業でも利用可能

学生が入力した文章を自動的に診断・採点

オンラインで文章力向上のポイントをアドバイス

1分以内に結果が出るので、授業中に何度も書き直し

管理機能で、結果を一元管理

レポート提出前に、オンラインで診断



NO	項目	点
1	センテンス(一文)の長さ	4/20
2	漢字使用率	7/10
3	名詞率	8/10
4	用言率(動詞、形容詞)	7/10
5	接続詞率	10/10
6	指示語率	10/10
7	副詞率	10/10
8	特有の言葉遣い	9/10
9	文末の統一感	10/10
	合計点	75/100

オンラインで文章診断

オンラインで、利用者が入力した文章を自動解析するサービスが始まっている。

1文の長さや接続詞、副詞の使い方の適否、指示語や接続詞の用法など、合計9項目を診断し、項目ごとに点数付けし表示する(100点満点)。ほぼリアルタイムで表示されるので、学生は減点の要因となった部分を修正し、再度、診断を行う。これを繰り返すことで学生は、他の人の手を借りずに文章を書くための基本テクニックをマスターできると考える。

最初から1000文字の文章が書けない学生も、設問に回答しながら一文づつ書きすすめる練習も可能である。設問は、教職員向け管理者機能で、設問内容も設問回数も任意に設定でき、教員毎の授業スタイルに合わせて、授業や就活といった目的別に合わせて、利用範囲は広がる。

自宅でも学内でも、インターネットに接続可能な環境とPCがあれば、いつでもどこでも利用可能。90分の授業時間内で書かせることも、レポート提出を課し

て課題として書かせることも、可能となる。

初年度教育から取り入れ、日々のレポート作成にも利用しておけば、就活でのエントリーシート作成にもあわせて。卒業論文のレトリックチェックにも効果を発揮するだろう。

文章力向上を図る背景

経産省の外郭団体である情報処理推進機構が2008年1月29日に発表した調査によると、「IT企業が大学に期待する教育内容」の第2位に文章作成能力・文章力が挙げられている。これに対し、大学側は10番目となっていた。情報サービス産業では、新卒学生の文章力に大きな危機感を持っているわけだ。他業種の人事担当者からの、大学でもう少し勉強してきてくればといった声も耳にした。

レポート、報告書、提案書、学術論文など他の人に事実を伝えたり、自分の主張を論理的に書こう

としたりした文章が、特に問題視されている。

「思いついた文章をただらと書き連ねるため、主語と述語が一致しない文が多い」「代名詞が何を指しているのか、理解できない」「読めるのだが、“そして”や“また”などの接続詞、“される”といった受身形を多用して、文章にまとまり感がない」「読み手の立場で係り受けを使っておらず、しかも語尾の統一感がばらばら」「よく知らない専門用語が頻出し、理解するのに苦労する」・・・。

これらの問題は、新聞や本、雑誌などを読まない人が増えた、きちんとした文章を書く機会が少なくなったといった事情があり、簡単には解決できそうにない。

文章力向上には、文章の診断(問題指摘)に要する時間を短縮し、トライ&エラーを繰り返せるようにする必要がある。そのためには、オンラインでの診断が有効となりえる。



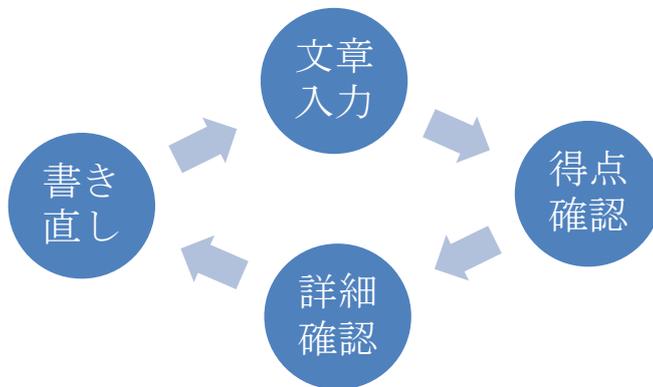
採点基準

オンラインでの文章診断では、利用者が入力した文章を 100 点満点で点数化している。そのロジックは、センテンス(一文)の長さ、漢字使用率、接続詞率、指示語率、副詞率など合計 9 項目それぞれに、10 点~20 点を

配点。各項目の得点を合計するというものだ。「接続詞率」を例にとると、入力した文章に含まれるセンテンス数と接続詞の比率を理想的な文章のそれと比較し、接続詞の数が多くなればなるほど減点する。このような採

点を可能にするために、大量の新聞文章を基にした基礎データ作成を実施し、日本語文章の専門家によるチューニングを加えて、理想的な文章の基準値を算出している。

診断サイクル



- ① 入力画面に文章を入力(コピー&ペースト)
- ② 文章診断結果で得点確認
- ③ 表現テクニックの詳細を確認し、
- ④ 指摘箇所を修正し、書き直し、再度文章入力し直す

教育の充実へ、利用を考える

【教養教育面での充実】

■ 初期導入教育を充実・・・文章を書く目的の授業なら、クラス全員(数十名)が、同時に利用可能。文章やレポートを、授業時間内に何度も「診断」「確認」「書き直し」可能

■ 「書き直し」と同時に第三者的に「読み直し」もおこなうことになり、「考える力」も養える

■ 経年利用で、文章作成に慣れ、就活にむけた「エントリーシート」にも備える

■ 文系・理系、男女の性別にとられない、日本語レトリックを診断

【教職員の負担軽減】

■ コンピューターによる解析のため、教える人の癖が出にくく、指導教員の文章指導負担を軽減 ⇒ レポート添削にかかる時間も節約

■ 課題レポート提出前に、診断し、書き直しをさせる・・・読み易い文章になったレポートで、読む時間を節約

【付加サービス】

■ 図書館サービスを充実・・・図書館にあるPCで自由に使えるように学生へ提供。レポート作成などでの図書館利用を促す

■ 科研費申請文章の傾向を分析・・・科研費獲得文章を診断し、その傾向をさぐる

■ 文章を書かせることで見えてくる思考タイプ別に「人材スタイル」や「適性」を評価